



連携事例5

H27.4 更新

長期入院の子どもたちへ笑顔の贈り物

～病気と向き合う子どもたちに楽しい舞台芸術やあそびをプレゼント～



BB もフランさんによるアフリカの太鼓“ジャンベ”で
リズム遊びのクリスマス
(12/25 千葉リハビリテーションセンター)

■協働パートナーの種別

NPO	企業	行政	教育	地域
-----	----	----	----	----

■事業運営団体

NPO 法人子ども劇場千葉県センター

■協働パートナー

☆千葉県小児科医会

☆実施病院 (26年度5病院)

■事業費

☆10～15万/1企画

事業概要

長期入院を余儀なくされ、家族と触れ合う時間やお友達との遊びを制限されている子どもたちが病院内で楽しく過ごせるよう、病院のニーズに合わせて、パントマイムや人形劇、音楽などプロのパフォーマンスや紙コップを使った工作・ミサンガ作りなどのワークショップを実施しています。

また、地域と病院をつなぐため、地域の希望者を対象にコーディネーターを養成したり、病院向けにワークショップのプログラムと関係者向けガイドラインも作成しました。

協働までの経緯

かねてから子どもの人権を保護し、子どもが育つ環境を良くするためにどうしたらよいかを考え各種事業を実施していた「NPO法人子ども劇場千葉県センター」に、平成15年、千葉県小児科医会会長から、「何か子どもたちを対象とした健康に係る事業をできないか」との相談がありました。

そこで、子どもの健康相談や「小児救急電話相談#8000」などの普及を行っていましたが、これをきっかけにして、平成18年、障害のある子ども向けにプロのパフォーマンスを体験してもらう特別公演を試験的に実施することになりました。

その公演が、大変好評だったため、平成20年から事業を拡大し県内病院の小児病院などでも実施したところ、この事業に関係した病院の先生等から、勤務先の病院での開催のお申し出をいただいて現在に至っています。

また、この事業を実施するにあたって、「タケダ・ウェルビーイング・プログラム」(長期病気療養する子どもとそのご家族をサポートする市民活動を応援する計画型助成システム)の助成を3年にわたり受けることができたことは、事業の継続と充実につながりました。

主な事業内容(年間スケジュール等)

- ①小児科医会代表者がプロジェクトメンバーに加わりアドバイス
- ②実施3か月前：実施病院のニーズ調査と企画プログラム選定
- ③実施2か月前：第1回病院訪問(説明とヒアリング)
- ④実施1か月前：第2回病院訪問(具体的な打ち合わせ)
- ⑤実施1週間前：ポスターの貼付・招待状配布



- ⑥実施当日：当日打合せと事業実施
- ⑦終了後1カ月以内：まとめ・振り返り
- ⑧コーディネータースキルアップ研修（10月）

① 主な協働パートナーとの役割分担

【NPO】プログラムの作成・運営、出演者への事前説明・講習・コーディネーターの養成
 【小児科医師会】プログラム構成についての助言等、病院への橋渡し（窓口や担当者の紹介）
 【実施病院】子どもの状況等を踏まえNPOと実施プログラムの詳細を決定、当日の会場準備とプログラムへの参加

② 協働事業によって生まれた成果

- 小児科医会が仲介に入ること、民間団体が病院に入ることができた。
- 子どもの笑顔を守りたいという思いはNPOも病院関係者も一緒。互いの専門性を持ち寄り、多くの子どもに笑顔を届けることができた。
- NPOが病院と地域住民の間に入ることで、病院と地域の信頼関係が生まれる。
- 病院が個々に実施する事業では、そこで完結してしまうが、NPOが実施する事業なので、県内各地に広げていける。

③ 今後力を入れていきたいこと

病気や障害の有無にかかわらず、どんな子どもにも楽しく日々を過ごせるような環境をつくるには、日常的に子どもの文化的生活のサポートが必要。

そのため、年数回のイベントにとどまらず、ワークショップ等の回数を増やしていきたいと考えているため、更なる資金獲得をめざしたい。

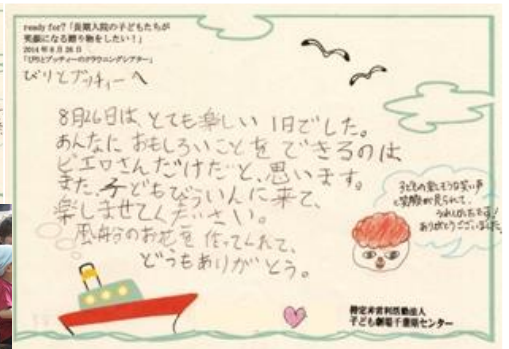
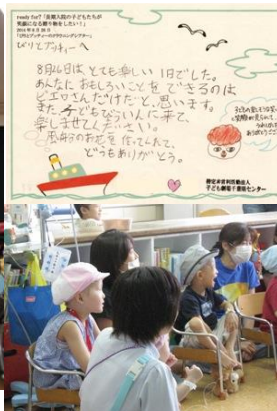
コラボのコツ!!

★関係者向けガイドラインを作成

★NPOも病院も地域とのつながり・地域から信頼を得ることを重視

部外者が病院に入り、事業することは簡単なことではありません。それは病院が治療の場であるという性質上、当然のことです。それゆえ、様々な制限やルールが設けられることとなります。それらを関係者が共有し、しっかりと確認しあうためのガイドラインを作成しました。

また、単にNPOが病院内で事業を行うのではなく、地域にコーディネーターをつくることで、地域が中心となり事業を継続していく体制を構築しました。



子ども病院：ナメちゃん “みんな一緒に踊ろう！”

下志津病院：びりとブッチィ
子ども達からのメッセージがなによりうれしい！

協働事例プロフィール

【活動開始年】 昭和63年（法人化：平成11年5月28日） 【活動のPR手法】 <http://chiba.gekijou.org/>

【この事業で活用した補助金】

- ①郵便事業株式会社：年賀寄付金配分事業（H20～23）
- ②千葉県：千葉・県民芸術祭県域芸術文化団体事業補助金（H20～23）
- ③千葉県遊技業協同組合他：夢まるファンド基金（H22・23）
- ④文部科学省：子どもゆめ基金（H22・24）
- ⑤NPO法人市民社会創造ファンド：タケダ・ウェルビーイング・プログラム2010（H22～24）

【委 託】①千葉県：県民活動促進事業「県民活動基盤強化事業」（H23・24）

- ②八千代市：放課後子ども教室推進事業（H23～25）

【表彰歴・マスコミ掲載歴等】

- ①「エクセレントNPO」をめざそう市民会議：第2回エクセレントNPO大賞市民賞ノミネート
- ②ちばコープ：地域かがやき賞奨励賞

【問い合わせ先】 担当者：大森智恵子 電話番号：043-301-7262 メールアドレス：kidchiba@lily.ocn.ne.jp